

新春 市長インタビュー

今月号では、宮本市長に新春のご挨拶をいただくとともに、インタビューした内容を紹介します。

市民の皆様へ新年のご挨拶をお願いします。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

本年が子どもたちをはじめ、市民の皆様にとって笑いの絶えない一年となりますよう祈念いたします。

さて、昨年はどういう年だったでしょうか。

やはり大阪北部地震や夏の酷暑、台風21号をはじめとする度重なる台風の影響など、自然の脅威にさらされた年だったと思います。市内でも多くの被害がありました。被災された皆様には、改めてお見舞い申し上げます。

一方で、11月には2025年に大阪万博の開催が決定されるなど、大阪・関西だけでなく日本の将来への期待が高まった年にもなりました。

子どもを真ん中においた子育て・教育への積極的な取り組みを

―市政を見ていると子育て施策を中心に進められていますね。

私は幼い時どのような経験をしてきたかが子どもたちにとって非常に大切だと考えていますので、将来の門

年頭のごあいさつ

門真市議会議員

佐藤 親太



新年あけましておめでとうございます。
市民の皆様には、平成三十一年の新春をつつがなくお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。
旧年中は、本市議会に温かい御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、日本各地で大雨や台風、地震などの自然災害が度々起こり、甚大な被害をもたらしました。本市におきましても、六月の大阪府北部を震源とする地震や九月の台風などにより、多くの方が被害に遭われました。被害に遭われました方々には、心よりお見舞いを申し上げます。
そのような中、本市議会では、超高齢化社会に備え「2025年問題調査研究特別委員会」を設置し、参考人からの意見聴取や他自治体への調査などを行い、今後予測される問題について、調査・研究してまいりました。
市民の皆様にとって安心・安全で暮らしやすいまちづくりを目指し、今後も議員が一丸となり皆様のご期待に浴えるよう、精一杯尽力してまいりますので、本年も変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本年が皆様にとって実り多き良い年でありますよう心からお祈りし、年頭の御挨拶といたします。

真を担う子どもたちには、質の高い就学前教育を受けてもらいたいです。

そのために、まずは保護者の経済的負担軽減のため、4歳児・5歳児を対象に幼稚園や保育園などにかかる利用者負担を無償化しました。ほかにも、放課後児童クラブの時間延長や待機児童の解消に向けた保育定員の拡充なども同時に進め、安心して子育てができる環境を整えています。

さらに、「子どもの未来応援ネットワーク事業」では、支援を必要としている子どもや保護者を発見し、支援から見守りまでをトータルで実施するなど、親だけでなく、子どもたちもサポートできるようにしています。

地域の方々の協力が大きな力に

―さまざまな面で地域の方々に協力いただいていますね。

「子どもの未来応援ネットワーク事業」では、1100人以上の地域の方々が「子どもの未来応援団員」となり、地域での見守りや支援が必要な子どもの報告などに協力してくださっています。当初、応援団員は600人を想定していましたが、予想を超えて大きな広がりを見せています。



また、昨年で復活から2回目の開催となりました「ふるさと門真まつり」も市民の皆様が主体となって企画・運営していただきました。当日は私も会場を回っていましたが、猛暑にも負けず、実行委員の皆様やボランティアの方々が頑張ってくれていたのが印象に残っています。さまざまな面で地域の皆様にご協力いただけていることは本当にありがたいことですし、こういったところに人の距離感が近い門真市ならではの人情や優しさが表れているのだと思います。

門真の活気ある未来の実現へ

―本年はどのような取り組みをすすめていくのでしょうか。
引き続き、子どもを真ん中においた子育て・教育への積極的な取り組みを進め、子育てをしやすいまちとしての魅力を高めていきます。
また、少子高齢化など門真市のさまざまな課題に、中長期的な視点から対応するための新たな指針となる「門真市第6次総合計画」の策定に向け、昨年に引き続き市民の皆様とともに議論を重ねていきます。
今後も、門真の活気ある未来を実現し、住み続けたいと選んでもらえるまちへとなるよう努めてまいりますので、市民の皆様におかれましてはご助力いただきますようお願い申し上げます。